

「福祉用具の未来につながる専門性の追求」

「未来につながる専門性」 を深め、発信する大会に



大会長 岩元文雄氏
(全国福祉用具専門
相談員協会理事長)

前大会は、会場とオンラインを併用して全国から900人を超える参加をいただいた。新型コロナウイルス感染症拡大により1年間の延期を余儀なくされたが、発表演題も素晴らしく、コロナ禍でもがきながらも第1回大会からブラッシュアップが図られ、福祉用具専門相談員の資質向上につながっていると自負している。第3回となる今大会も、コロナの状況はまた見逃せないがオンラインを併用した形で開催する。一方で、メーカーとも連携して製品展示やランチョンセミナーなど、感染状況に目を配り、現地開催を充実させる可能性も探していきたい。

PDCAサイクルに沿った住環境整備、テーマに

今大会は「福祉用具の未来に

つなげる専門性の追求」PDCAサイクルの推進は福祉用具の適合が鍵をテーマに掲げている。よく知られている地域包括ケアシステムの概念図では、植物や土の器の植木鉢が「すまいとすまい方」を表している。福祉用具専門相談員はまさに、福祉用具や住宅改修を通じて住環境整備により、利用者の「すまいとすまい方」の最適化を図る役割だ。

そして住環境整備は一度行えば終わりではなく、要介護度の進行や状況の変化に応じて見直ししていかなければならない。現場ではモニタリングを通じてその変化を捉え、借りの換えなどの次の対応に繋げている。このPDCAサイクルにより、状況や状況が変わってもできる限り、その方の暮らしが継続されるための「すまいとすまい方」を検討し、提案している。こうした福祉用具専門相談員の職能をさらに深め、発信する大会にした

た。

2月には厚生労働省の「介護保険制度における福祉用具貸与・販売種目のあり方検討会」が立ち上がった。財務省は、歩行補助杖や歩行器、手すりなどの一部種目について貸与から販売へ移行させてケアマネジメンツの費用を抑えることを提起している。

レンタルの仕組みが機能しているからこそ、状態が変わっても適時・適切な対応ができていくことを、我々自身は経験から知っているが、これを外部にも知ってもらえるように努めなければならぬ。職能の向上はもちろんだが対外的な発信の場でもある。

新たな演題テーマに「メーカー連携」

今回、口述発表のテーマは①PDCAサイクルの推進②福祉用具安全利用に向けた取り組み③福祉用具メーカーとの連携・協働④地域、多職種連携、事業所の取り組み⑤経験3年未満相談員の福祉用具導入事例——の5つとした。

「福祉用具メーカーとの連携・協働」をテーマに置くのは今回

が初めてだが、福祉用具専門相談員のみならず、メーカー・卸など福祉用具に関わるさまざまな方を巻き込んだ大会にしていきたいという思いがある。福祉用具の安全利用は福祉用具を扱う立場として考え続けなければならないテーマだ。大会を通じて、現場の意識をさらに高めていきたい。

また介護業界の今日的なテーマとして、科学的介護情報システム「LIFE」やBCP(業務継続計画)などもある。その他のテーマも含めて、今大会ではどのような演題が寄せられるのか、私自身も期待を膨らませている。

全国の福祉用具専門相談員や福祉用具に関わる方々がオンラインも併せて一堂に会し、自身の専門性・職能を成長させる絶好の機会なので、ぜひご参加いただきたい。